

<かやまヒストリー> 加山興業(株)の歴史や略歴

法人設立年月日 昭和36年11月01日

昭和26年 初代社長 加山勇雄が愛知県警を退官し名古屋市内において創業
昭和36年 加山興業株式会社設立 最終処分業
昭和47年 名古屋市内において最終処分場の許可を受ける
昭和53年 初代社長 加山勇雄 病気により加山昌弘が社長となる
昭和59年 愛知県豊川市に七つの最終処分場の許可を受ける 中間処分業
昭和63年 愛知県豊川市内(現在地)に廃棄物選別のため工場新設
平成02年 15条施設許可(焼却、破碎)を受ける
平成03年 減容固化業により固体燃料製造開始
平成07年 焼却熱利用により真空乾燥装置で乾燥許可を受ける
平成08年 発泡スチロールの資源化開始
平成09年 工場増設、設備増設により15条施設許可(焼却、破碎)を受ける 資源循環型処分業
平成12年 蛍光管破碎許可を受ける(資源化率95%)
平成14年 8条施設、15条施設許可(選別、破碎)を受ける
平成15年 木チップの製造販売開始
平成14年 第一種フロン類回収業者登録
平成17年 ISO14001取得(9月)
平成18年 RPF製造販売開始

編集:かやま通信実行委員会



廃棄物のことなら当社にお任せください!!

●WEBカメラ作動中! ●当社車両全てにGPS搭載!!



場内WEBカメラを使用し
リアルタイムに廃棄物の
処理工程をご確認頂けます!

見学随時
受付中!



押出成形RPF燃料化
処理能力192.96t/日



選別-8品目-
処理能力751.92t/日



焼却-12品目-
サーマルリサイクル
処理能力15.1t/日



木くず
処理能力1051.44t/日



蛍光灯
処理能力1.8t

<トピックス>

頑固さで「優良性評価基準適合」の企業

GPS業務管理やフロン回収業務も

加山興業(株)は、愛知県で頑固なほどに適正処理を貫く処理事業者だ。施設は、「破碎・選別施設」「焼却・乾燥施設」「蛍光管の破碎」「RPF化施設」などを持っており、環境ISOを取得して、環境マネジメントシステムを組み込み、複数の「優良性評価基準適合」を受けている事業者だ。



同社の回収のための車両は、全車をリアルタイムで現時点を見ることができる「GPS」で業務管理している。他にも、エアコンなどのフロン回収業務なども行ない実績を重ねてきた。

Topics

環境ISO認証取得で意識変革

同社は、ISO14001(環境マネジメントシステム規格)の認証を取得した。2005年3月、認証審査機関である株式会社日本環境認証機構(JACO)による本審査を経て、判定委員会で正式に認証された。2004年6月に加山社長のもとISO14001プロジェクトを発足させ、キックオフ宣言を行い、全社活動として認証取得に取り組んできた。今後もこのシステムを通じて、社員全員が環境汚染の防止、コンプライアンス(法規制・倫理の遵守)、廃棄物の適正な処理に努め、循環型社会の構築に寄与する環境経営を目指す。

多数の優良性評価の適合状況

同社は、愛知県「産業廃棄物処分業」の優良評価適合基準第3号(2007年6月)となった。同年3月には、愛知県「産業廃棄物収集運搬業」の優良評価適合基準第3号となり、同年2月には、豊橋市と岡崎市の「産業廃棄物収集運搬業」の優良評価適合基準第1号、豊田市「産業廃棄物収集運搬業」の優良評価適合基準第2号を受けている。





People

<MVP:最高の笑顔で働く社員>

胸を張り 環境の仕事 育てゆく

ここでは、目覚しい活躍をした従業員や将来有望な社員を顕彰し、紹介するコーナーです。第1回目の今回は、営業主任の星野潤(ほしの・じゅん)さんを紹介します。

私は、2004年から営業として働き始めました。以前は、土木建築の仕事をしていましたので、どちらかといえば環境を破壊することが多かったような気がします。

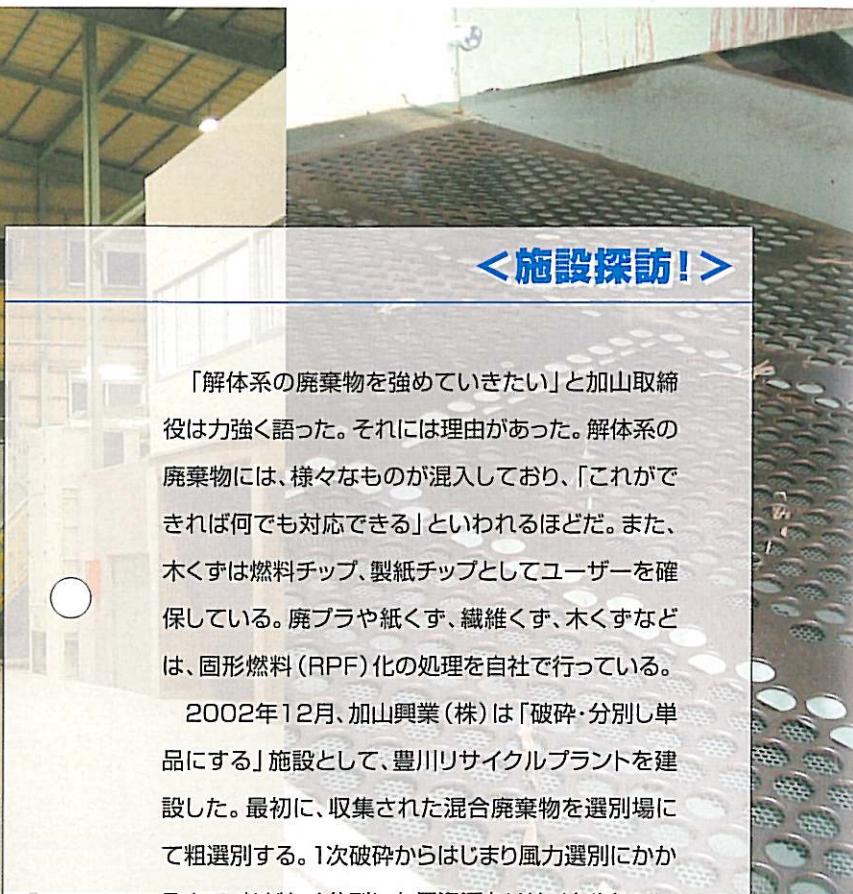
この仕事が心から「素晴らしい」と思えるようになってきたのは、2005年に開催された愛知万博です。ご存知のように愛知万博の最大のテーマは、「環境」でした。環境を守り、育していく事業をやっていくことに誇りを持てるようになりました。

具体的に何をやっているのかといいますと、廃棄物を媒体にして企業間の橋渡しを行うコンサルティング事業のようです。コンサルタントというと偉そうに響いてしまいますが、要は「相談を受ける」ことです。我が社で処理ができるものは、当然させていただきますが、すべての廃棄物の中で、できないものもあります。常にお客様にとって有利になるような視点を忘れないで、相談を受けております。

その中で、非常に重要なことは、新しい情報を得る工夫を忘れないことです。例えば、蛍光灯のガラスを中間処理することで、有価物に変えることができます。これは、技術だけでは成立しません。有価で受けてくれる事業者がいなければできないことです。このマッチングが営業の醍醐味といえるかもしれません。

何もしなければ「ごみ」だったものが、価値のある「宝」に生まれ変わる。この積み重ねが信頼の輪になってつながっていくものだと思います。



<施設探訪!>

「解体系の廃棄物を強めていきたい」と加山取締役は力強く語った。それには理由があった。解体系の廃棄物には、様々なものが混入しており、「これができれば何でも対応できる」といわれるほどだ。また、木くずは燃料チップ、製紙チップとしてユーザーを確保している。廃プラスチックや紙くず、繊維くず、木くずなどは、固体燃料(RPF)化の処理を自社で行っている。

2002年12月、加山興業(株)は「破碎・分別し単品にする」施設として、豊川リサイクルプラントを建設した。最初に、収集された混合廃棄物を選別場にて粗選別する。1次破碎からはじまり風力選別にかかるまで、むだなく分別し有価資源をリサイクルしていく。破碎・選別された中で、可燃廃棄物は、ダイオキシン測定値をクリアした2基の施設焼却で処理されるが、建築汚泥の処理も乾燥施設で行う等「サーマルリサイクル(熱回収)」を行っている。焼却プラントには、それぞれ「バグフィルター」が付けられており、ダイオキシン類を出さない工夫は、万全だ。

「現在のリサイクル率は85%ですが、近い将来には90%までもっていけます」(加山取締役)

立陶宛共和国
Photo: NISSAN



Guide